

Management Club Report

May.2012/Vol.113

Monthly Opinion 《歯科医院経営失敗の検証》

先月号は『Harvard Business Review』1月号で組まれた特集『リーダーシップ不在の悲劇／検証 失敗の本質』からの引用などを交え対米戦へと突入した外交上の不明と、リベラル・アーツに欠ける組織が組み立てた軍事作戦の失敗による敗戦の原因などについて述べました。本来は現代歯科医院における経営上の失敗に、それらを重ねることを試みたかったのですが、誌面の関係上残念ながらできませんでしたので、今月は長年歯科医院を見てきた中で経験した『歯科医院経営における失敗』事例を紐解き『失敗の本質』を検証してみようと思います。

1

ファイナンス会社で体験した要因別失敗事例

順風満帆な医院経営を襲う黒い影

かつて経営破綻の原因で最も多かったものが、いわゆる『黒字倒産』です。患者数が多く売上が順調で所得番付にでも載るかというような歯科医院は当然黒字です。普通にやっていれば倒産などするわけではないのですが、何故かこういう歯科医院の中に次第に傾いていくところが散見されたものです。黒字経営なのに破綻に向かってしまう。この失敗の本質はどこにあったのでしょうか。過去形表現にしましたが、現代においてもなくなるリスクのひとつです。

黒字倒産の3タイプ

『黒字倒産』にも種類があり、その原因により次の3つに分けられます。1つは頭の悪い人が陥る『放漫経営』、1つは浮気性の『多角経営』、そしてお調子者の『過剰投資』です。

やや意地の悪い形容詞を付けて『黒字倒産』の3パターンを紹介しました。クールに付き放して見てしまえばそのとおりではありますが、そうとばかりは言えない、その人だけを責めることのできない状況が歯科医師人生の中にはいくつも存在していたことを、今改めて振り返ることができます。

放漫経営とは自己コントロール力を欠いた経営で、計画を立てられなかったり、立てても計画どおり実行できなかったりする人の経営です。お金に溺れるタイプが多かったことも事実ですが、魅力的で人から慕われる好人物、いわゆる太っ腹の親分肌タイプなどが陥りやすい経営形態でもあったのです。

放漫経営に陥りやすい親分肌の性格

細かいことに捉われず部下や後輩の面倒見のよい人というのは、どの世界でも一般的に魅力溢れる好人物が多いものです。とてもよい性格で、その人の強みでもあるでしょ